快挙　鶴ヶ島の15歳　186万作品の中から　文部科学大臣表彰

鶴ヶ島の15歳　文部科学大臣表彰を受賞。伊藤園　新俳句大賞だ。

186万作品の中から射止めたということもすごい。作者の吉村英竜さん。この春鶴ヶ島南中を卒業したばかり。名前の字面からみても、鶴ヶ島「脚折雨乞　龍蛇様」に相通じるところもあり、鶴ヶ島市の公共イメージがさらにアップだ。

作品の「ただいまの静かに響く金魚鉢」本当に見事な余韻だ。

以前　俳人金子兜太氏（現代俳句協会会長）の実弟、故金子千侍先生（医師・秩父音頭家元）から直接俳句の指導を受けた。俳句は季語をいれることはもちろん、その句から情景が手に取るように再現でき、その句をするめいかのように何度も何度もかみしめたく思う「余韻」が命と金子先生はおっしゃっていた。

また、今回の受賞を手離しで喜び、facebookで発信しているのが藤縄鶴ヶ島市長。藤縄市長のアンテナの高さは定評があるが、時流にのった効果的なSNSの使い方だ。

伊藤園「おーいお茶」５２５ミリのペットボトル。吉村さんが詠んだ「ただいまの静かに響く金魚鉢」に出会う確率は難しいが、ぜひ手にとってその余韻を愉しんでほしい。